

Book Review



インプラントトラブルの 対応策と予防策

鈴木貴規 著

● ● ●

Reviewer

丹野 努 Tsutomu Tanno

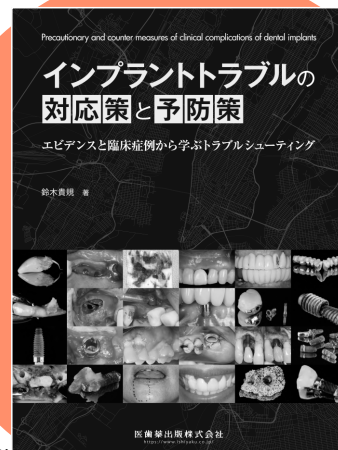
(栃木県・丹野歯科医院)

A4 判変, 240 頁

カラー

定価 (本体 15,000 円 + 税)

医歯薬出版刊



現在のインプラント治療は、成長期から成熟期を迎え、適応症の拡大を追求していた時期からより安全に、より低侵襲に行えることを追求する時代に変化している。ただ、筆者が歯科医師になりたての頃には、インプラント治療はまだまだわからないことが多かったと記憶している。インプラント体に求められる要件は何か？ 表面性状は？ 適正な埋入トルクは？ 適切な切開ラインは？ 適切なサイナスリフトの補填材は？ その術式は？ …等々、日本国内では、まだ答えがない時代であったし、現在のようにインターネットも普及していなかったため、情報を得るためには、直接海外に行くしか手段はなく、筆者もその答えを求めて、ニューヨーク大学に行き、そこで知り合ったのが本書の著者である鈴木貴規先生だった。

鈴木先生が所属されていたニューヨーク大学歯学部インプラント科は、インプラント学の権威、Dennis P Tarnow 先生が指揮をとり、世界的に著名な先生方とインプラント学を世界に広め、さまざまな研究を行うことでインプラント学のエビデンスを強めていった。Tarnow 先生の歯間乳頭の分類や抜歯即時埋入の論文などは有名で、世界のインプラント治療を長い間リードしていた。

ニューヨークという土地柄もあり、

インプラント科には幅広い層の患者が多く来院する。さらにニューヨーク最大級のインプラント科ということもあり、他院や海外で失敗した症例を多く受け持つ。そこで鈴木先生は 12 年以上、とても珍しい症例から難症例まで、幅広く対応してきており、その経験が本書に余すところなく書き綴られている。

先に述べたように、インプラント治療は、治療を達成させる段階から、自分で施術したインプラントもしくは他院で施術されたインプラントのトラブル対策や、トラブルを起こさないための対策が必要となる段階に移行している。ただ、自分で経験していないことを未然に予知することは、なかなか難しいのが現実である。「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」という格言が示す通り、自分で失敗を経験することで学ぶよりも、誰かが失敗したことを学ぶことが、成功への近道と思われる。

本書では、エビデンスに基づいた適切な術式の確認、間違いを犯しやすいポイント等を、わかりやすく解説している。インプラント埋入のための切開ラインの設定（歯冠乳頭が退縮しないようにするための切開、血液供給を理解した切開線等）、上顎洞挙上術に関するトラブルシューティング（上顎洞粘膜穿孔、感染、出血への対応等）、

骨造成におけるトラブルシューティング（各種骨造成の術式、注意点等）、軟組織手術におけるトラブルシューティング（FGG、CTG の注意点）、インプラント周囲炎に対する対応等、内容は多岐にわたる。これらの内容は、インプラント関連の学会等でしばしば議論的になる項目であり、それらを鈴木先生が、ニューヨーク大学で培った論文（知識）と経験により余すところなく解説している。漠然と日々の臨床をしていると見逃しがちなこと、なんとなく感覚でやってしまっていることなど、自分のやり方や知識を整理するのにとてもこの内容である。

トラブルはないほうがよいし、回避したい…と誰しもが思っていることであろう。しかし、現実において治療の成功確率は 100% ではなく、トラブルなどの失敗がついてくる。成功率を高める努力もさることながら、トラブルにどう対応するかが、臨床では特に重要であると考ええる。本書では、鈴木先生がインプラント科で実際に対応した症例をもとに、論文によるエビデンスサポート、ならびに重要と考えられる臨床的判断を加え、インプラントトラブルの対応策と予防策を講じている。日々、インプラント治療を行っている先生方、インプラント治療の技術、知識をさらに向上させたい先生方にとって必読の一冊である。